

ヒノキカワモグリガの林業的手法による防除

福岡県飯塚農林事務所 福島 是明
 福岡県水産林務部 光枝 康隆・八尋 秀明
 福岡県林業試験場 大長光 純

1. はじめに

福岡県におけるヒノキカワモグリガ(以下、本害虫と呼ぶ)の分布状況は既報¹⁾のとおりであり、その被害は増大しつつある。そこで今回の報告は、本害虫の防除法の一つとして考えられる林業的手法によって、どのような防除効果が得られるか、昭和59年度林業技術現地適応化促進事業で取り組み、1984年から調査を行なったので、その結果を報告する。

2. 調査地の概要

本害虫が分布している英彦山々系のなかから、福岡県田川郡添田町大字英彦山、高巣原県行造林地内に調査地を設定した。当調査地は、標高760mの北向き斜面で、樹種はサシスギ(ヤマグチ)である。1984年5月の調査では、林齢15年生(昭和46年3月植栽)、平均樹高10m、平均胸高直径10cm、平均力枝高4.5mである。

3. 調査の概要

(1) 調査区の設定

調査区は、表-1、図-1のように異なる施業毎に約0.6haを6区に分けて設定した。

(2) コブとヤニの調査

各プロットから無作為に30本ずつ、計180本の調査木を選び、根元から3mまでについて、1m毎にコブ及び新ヤニと旧ヤニの数を調べた。その結果は、表-2のとおりである。

(3) 割材調査

各プロットから無作為に5本ずつ、計60本の調査木を選び、5cm毎に玉切り、各円盤について、方位毎に材斑数(食害痕)と加害年を調べた。その結果は、表-3、図3、4のとおりである。

4. 結果と考察

コブとヤニの調査結果を表-2と図-2に示す。表-2からヤニの数については、施業の違いによる有意な差は認められなかった。また、7月、9月の調査で

は新ヤニの数は多く、それ以外は少なかった。図-2から、新ヤニの総数は、地上近くに多いが、単位面積当たりの数では、あまり差はなかった。

割材による材斑数を表-3と図-3、4に示す。表-3から、ヤニ調査と同様、材斑数についても施業の違いによる有意の差は認められなかった。但し、虫密

表-1 調査区の概要

PLOT No.	施業内容	面積	本数	施肥量	枝打高	間伐率
1	枝打	0.099ha	249本	72.5kg	5m	
2	施肥	0.094ha	330本		5m	
3	間伐	0.100ha	192本	80.0kg		30%
4	間伐	0.100ha	161本			30%
5	無施業	0.096ha	252本	72.5kg		
6	無施業	0.082ha	210本			
計		0.571ha	1,394本			

★枝打 S59 10 29 30 ★間伐 S59 6 14

★施肥 S59 5 28, S60 5 23, S61 6 11

★肥料成分 林業用肥料 N(15%) P(10%)
K(7%)

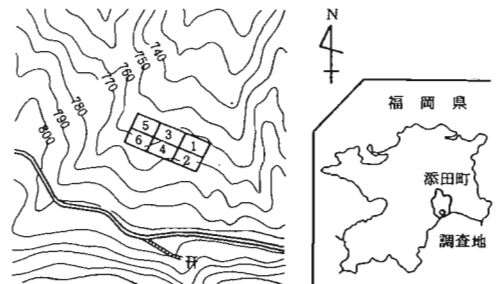


図-1 調査地位置図

Koreaki FUKUSHIMA (Iizuka Br., Fukuoka Pref. Off., Iizuka, Fukuoka), Yasutaka MITUEDA Hideaki YAHIRO (Dep. of Fishery and Forestry, Fukuoka Pref. Off., Fukuoka 812) and Jun OHNAGAMITU (Fukuoka Pref. Forest Exp. stn., Kurogi, Fukuoka 834-12)
 Control of *Epinotia granitalis* (Lepidoptera, Tortricidae) by the forestry methods

度を表わす材斑数については、1981年以降、多少、漸増傾向を示しているようである。図-3から、樹高別材斑数をみみると、地上高の低い程、材斑が多く見られる。また、単位面積当りの場合は、力枝付近と根元付近が多いようである。図-4から、方位別材斑数をみみると、多少、東から南に多い傾向を示している。

以上のことから、今回の林業的手法による防除効果は、今のところ認められなかったが、本害虫の生息数が少しずつ増えているようなので、今後とも継続的な調査を実施していきたい。

引用文献

- (1) 大長光 純ら：日林九支研論集 No.36, P 217～218, 1983

表-2 調査木のヤニ数の推移

調査 PLOT No	調査 月日	新 ヤ ニ							コブ
		旧ヤニ 60.3	59.6	59.9	60.3	60.7	61.7	計	
1	120	0	7	6	9	21	43	65	
2	122	4	0	6	15	20	45	51	
3	155	1	5	1	30	15	52	65	
4	139	1	17	0	57	16	91	25	
5	93	0	22	1	17	14	54	42	
6	147	0	20	1	18	10	49	27	
計	776	6	71	15	146	96	334	275	

表-3 割材による年度別材斑数の推移

年度 PLOT	55 56 57 58 59 60						計
	以前	55	56	57	58	59	
1	0	7	1	6	3	12	29
2	1	3	8	8	4	20	44
3	27	1	0	18	3	12	61
4	8	5	4	5	10	3	35
5	5	5	1	6	2	7	26
6	8	3	1	12	2	3	29
計	49	24	15	55	24	57	224

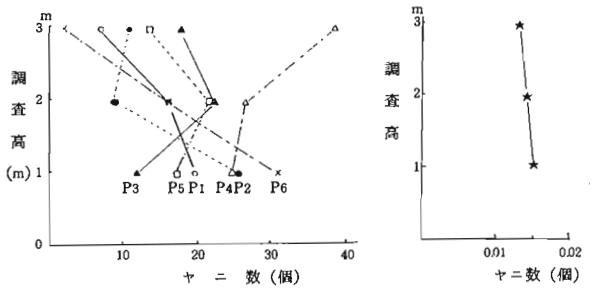


図-2 調査木の樹高別新ヤニ数

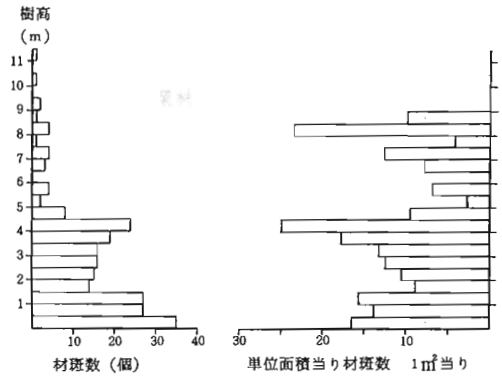


図-3 割材による樹高別材斑数
※調査本数30本

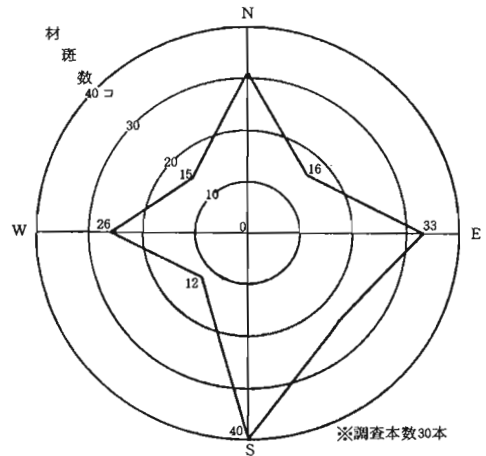


図-4 割材による方位別材斑数
※調査本数30本